

デンタルタイムズ

第12号
編集者 東雲 那津子

《おでん》がやってきた

文 東雲



虫歯予防のDAYの翌日。
梅雨の晴れ間の6月5日、
若松歯科に《おでん》が
やって来たのです。

おでん・・・？・・・？
？・・・？

実は、院内で扱っている歯ブラシ
の「コテパ」の本社がある遠く離れた
スウェーデンから、専属歯科衛生士
のマリア・オグティーンさんが「是非
若松を視察したい」と・・・
彼女は、各国を飛びまわり
スウェーデン方式を
広めている世界的に



有知なハイジニスト（歯科衛生士）
なのです。

来日の際は、歯科大学や
衛生士の専門学校で講演を
行っている彼女が

若松に来るとあって
私たちは、数日前から
興奮状態でした。

ルックスは、ショートの

ブラウンヘア。瞳はグリーン。

背が高く、とても足の長いカウイイ
女性なのです。

仕事内容も

くることながら

その容姿に女の私としては

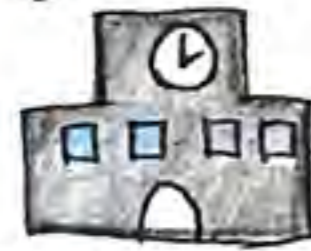
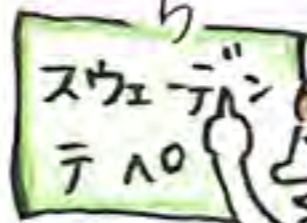
ちょっとシラシーさえ感じてしまっ

ぽど・・・（待合室にある「ミニテ

ィンスのお誘い」の最後のページに



Hi
KONNI
CHWA



出てくる女性のよらかな感じがす。
そして、なによりも、じっと目を
見つめてお話をされるのが、とても
印象的な方でした。

そのマリア・オグティーンが

若松も視察しながら・・・

「エクセレント」を

連続されている

ではありませんか！

彼女の目を最初に

奪ったのは、内装でした。

若松の待合室から診療室へ移動しな

がり・・・「エクセレント」

そして、クリーニングを行っている

予防室を見て、ケアー中心で予防を

徹底していることに・・・

「エクセレント」

さらに・・・



Excellent



Wao!!

MACHIAISHITU??

Excellent!!



クリーニングを受けている
患者さんや衛生士と話して
いる患者さんの表情がとても
モリモチクスしていること
に……エクセレントノ!

患者さんへのパソコンを使った

説明や若松オリジナルの口腔指導の
物語に……エクセレントノ!

患者さんが、ちょっとした待ち時間
に読んでくださったっている手書きのこ
の新聞を見てハートが伝わる……

「エクセレントノ!」
そして最後に
私がポケット測定を
ハイ……ハイ……
している横で院長先生が
数値を記入していると……



「ドクターが、衛生士のは事を手伝
ってくれますなんて、スウェーデンで



もありえは「わ。」と笑いながら
「エクセレントノ!」
そんなこんなで、若松を見ながら
オーディンさんは、本当にエクセル
レントノを運送されていきました。

そして、講演会の為、若松を

出て院長宅へ向かう途中

ナツキ平の車と人を分離した

幅の広い歩道と緑のあふれる

環境に「スウェーデンに近い」

と感動しておりました。

しかも院長宅のエレベーターホール

から新三郷駅前

のIKEAの看板が

見えたことに

「ワオオオノ!

イスケラアッノ!

と大興奮されていました。



講演会にて



(2)



はじめに、オーディンさんが、
30分程スウェーデンの歯科
事情を話してくださりました。

もちろん、英語ですよ、

「えっ、私ですか?」

もちろん、ちゃんと

理解していましたよ、

だって、同時通訳付きですよ、

スウェーデンは、19歳まで歯科

診療がすべて無料で

受診できるそうです。

しかも日本では、

保険の利かない矯正

までも無料だそうです。

歯並びを予防の一環と考えられてい

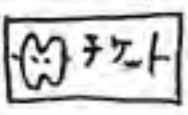
るのですね。へすばらしいです。

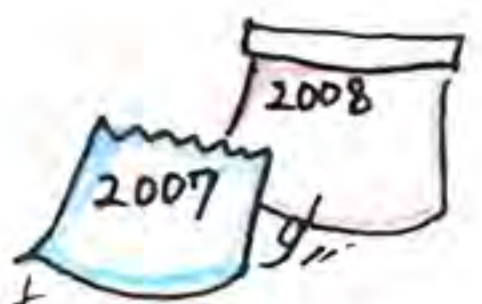
19歳からは、2年に一度無料の



日本語通訳

English





が発行され、有効期限は、
2年間だそうです。
ですから、無駄にするのは
もったいないと、ほとんどの

国民は予防をすすんで受けると
おっしゃっていました。
子供に対しての予防は、
日本と大きく異なります。



子供達は10歳(十ちんと字が
書けるようになる年齢)になる
まで親が歯をみがくそうです。

親は、歯科医院で歯の磨き方を
しっかりと習い、それを子供へ
教えていくそうです。
おやつは、週一回
決めた日を作り、
その日以外は、食べない習慣を作る。
など、スウェーデンの予防の徹底さ



を勉強することができました。

ところで、テペの社名の由来

についてですが...

なぜ「テペ」だと思いますか？

歯ブラシを作っていますが、

創設者は歯科医師ではなく

大工さんだったのです。

余った木を利用して

《介橋杖》つまり

TOOTH PICKを

作って売ったのが

始まりらしく、この頭文字

から「テペ」と社名が付いたそうです。



マリア・オディーンさんの講演が

終わり、お腹もすいてきたところに、

私達が朝から仕込んだ「おでん」が

シェフ小島の手によって洋風にアレ



ンジされ、配られました。

すると、オディーンさんは、

ニコニコ顔で、「おでん」を

ほお張り始めました。

なかでも初めて見る

「はんぺん」は、えらく気に入った

様子で、魚から出来ると聞い

て、またしても「エクセレント」。

続いて出された桜チップで

スモークした魚介のサラダに

舌鼓をうっている、いつの間に

やら、一箱に采っていたアベリンさん

が口所に入ってきている

ではありませんか。お

彼も、なかなかの腕前らしく

シェフ小島と料理談議に

サバが咲いていました。

訳の分からない英語と笑い声が



Mizuko desu!!



飛び交い、インターナショナル

な時が流れていると・・・

いつでも、どこでも、日本語



「オンライン」で押し通すスーパー

ガールの荒川美和子の登場です。

以前の新聞でも紹介した、美和子

のペースを使った咀嚼実験が、ヌタ

ートすると、またしてもオディーン

さんは「エクセレント」を連発。

メイン料理は、私たちの心を

隠し味に使ったホークの

グリルとチキンの香草焼き。

みんなが「おいしい。美味しい」と

言っていて、食べてくれて、早朝からは送

んだ甲斐がありました。

「私って、いいお嫁さん

なれそう。

スウェーデンからお見合い話



エイオー!!

が来たリして・・・

そんな妄想をしているうちに、夜の

十時をまわってしまった。北欧での再

会を誓いお別れとなりました。

予防歯科の先進国スウェーデン

から来たトップ衛生士を感動させた

若松歯科の診療スタイルと

それを支えるスタッフの

マンパワーのすごさと

小島先生のチャレンジ精神と

陰で支える奥様の愛の大きさに

国際交流も無事終了しました。

参加した20名程の歯科衛生士

達は、これからの日本の

予防歯科に一石を投じる

こととなるでしょう。

みんなが帰ったあと、

ダイニングテーブルで



LOVE 100%

コーヒーを飲みながら、ホークとし

ていると、走馬灯の様にこの一年間

が思い起こされてきました。

私が、歯科衛生士になり

一年の間で本当にいろいろ

な体験ができました。

歯科ドック・小学校での授業・

ソフトの製作・東京デンタルショー

での講演などなど・・・

もちろん日頃の臨床も頑張りました。

忙しい一年でしたが、本当に楽しく

本当に、あっという間の一年でした。

そして今年も、もっと忙しくなりそ

うです。

平均寿命の八十五歳まで

あと、〇〇年・・・

歯科衛生士として、

生涯頑張ってください。



ニホリをこぼして

もらった

の

元気だします

絵 荒川

かんはま